

## 国際交流プログラム開発のための基礎的研究 I

—「-ix (アイエックス) -国際交流友の会/沖縄の歴史文化学習会」の取り組み—

### Basic Study for Development of International Exchange Program: Historical and Cultural Excursion in Okinawa 2017

内 間 貴 士  
Takashi Uchima

#### 1. はじめに

「沖縄の歴史文化学習会 (以下学習会)」は、国際平和文化交流センター (以下交流センター) が展開する国際交流事業「-ix (アイエックス) -国際交流友の会 (以下国際交流友の会)」の活動の一環として実施している。この学習会は、参加する外国人留学生と一般学生等の交流の活性化を図るとともに、沖縄県内の史跡、自然教育施設等を訪問・見学し、歴史・文化・自然と様々な観点から沖縄を再発見し、対外的に沖縄を発信する力の養成を目的とするフィールドトリップである。

筆者は2014年度から交流センターに配属となり、本学習会の企画実施を担当することとなった。筆者は「沖縄特例通訳案内士 (中国語)」の資格を有し、専門は民俗学である。今年度 (2017年度) で4度目の担当を数える本プログラムは、筆者の有する専門知識や資格を有効に活用した、本学ならではの国際交流事業のひとつとなっている。

本稿は、今年度実施した取り組みについて、その行程、参加者数、アンケートの集計結果についての報告を行い、プログラム開発のための基礎研究のはじまりと位置づけている。今後、本学習会の歴史等を研究しながら、その意義、教育的効果、さらにこれからの時代に即した展望について検証する論文を執筆していきたいと考えている。

#### 2. 2017年度実施の「沖縄の歴史文化学習会」の概要

##### (1) 学習会の日程及び行程について

本学習会は、事前学習会とフィールドワークから構成されている。

##### 1) 事前学習会

日程：第1回 2017年6月21日 (水) 12:20~12:55

第2回 2017年6月28日 (水) 12:20~12:55

場所：沖縄キリスト教学院 (以下本学) SHALOM会館1-1教室

##### 2) フィールドワーク

日程：2017年7月1日 (土) 8:30~17:00

行程：本学出発→「福州園」→「孔子廟」→「天尊廟・天妃宮」→昼食 (漢謝園)  
→「首里城公園」→本学到着・反省会・解散

##### (2) 参加者数

2017年度は34名の学生の参加希望者があった。移動手段のバスの座席の関係上、先着順としており、キャンセル待ちの調整を経て、最終的に25名の学生と、3名の教職員を含め28名の参加者となった。参加者数とその内訳は次の表1の通りである。

表 1 2017 年度学習会参加者数

学科及び部署	学年	人数	備 考
本四大 人文学部英語コミュニケーション学科	1 年	4 名	
	2 年	13 名	
	3 年	2 名	外国人留学生 1 名含む
本短大 英語科	1 年	6 名	
学生課・国際平和文化交流センター職員	—	3 名	ガイド（筆者）含む
合 計		28 名	

(3) 学習会のテーマ：「琉球王国の『国際交流』を学ぶツアー」

本学習会の周知ポスター（図 1）で示しているように、本ツアーの行程の企画にあたって、期待した教育的効果は、「沖縄の歴史・文化を学ぶ意欲と発信力の喚起」である。琉球国時代の対外関係を当時の「国際交流」と位置づけ、琉球が「万国津梁の島」とうたわれる国であったことを、本ツアーを通して参加学生が再発見し、沖縄を学ぶ動機付けとなることをテーマとして設定した。

ガイドは「沖縄特例通訳案内士（沖縄県公的資格）」である筆者が担当し、専門知識をベースに、留学生、在学生に合う内容を企画した。当日の訪問先では、琉球史、対外関係史、民俗学的観点を絡めて紹介するとともに、通訳案内士の業務内容について説明し、沖縄を海外に発信するための知識や心構えについて解説する。本学習会は、あくまで自主的な参加による課外活動であり、授業ではない。本学習会の参加者には、あたかも観光客として参加しているような気分で、気軽に歴史・文化に触れ、楽しんでもらえるような雰囲気作りと、行程の構成に努めている。

3. 「沖縄の歴史文化学習会」の実施

(1) 学生への周知

学習会の実施に向けて、前年度 3 月の段階でおおよその日程を決定するが、補講や、オープンキャンパス等の本学行事に重複しないよう配慮している。また、多くの学生が参加できるよう、急な日程の変更にも対応すべく 2015 年度からは本事業を学年歴に明示しないこととした。

本学習会の開催周知は、4 月に実施される学生課及び交流センター主催の「新入生オリエンテーション」「春の留学セミナー」「国際交流友の会新入生歓迎ランチ会」等で行う。加えてポスター（図 1）掲示や、メールリスト配信でも情報提供する。

(2) 定員および移動手段

バスツアーのため、バスの収容人数が定員となる。移動手段は、西原町社会福祉協議会の福祉バスを利用しており、定員は 28 名である。2014 年度以降は、ガイド担当の教職員は 1 名、補助として学生課教職員が 1 名ないし 2 名



図 1 学習会周知ポスター

入る。その他教職員の参加を妨げることはないが、学生を優先するため、応募状況を勘案し、その都度判断する。

### (3) 事前学習会

事前学習会は、フィールドワークで訪問する施設に係る基礎知識について学ぶ機会である。筆者が担当当初となった2014年度においては、純粋に「オリエンテーション」として実施し、しおりの配布と当日の注意事項についての周知にとどまっていたが、2015年度からは教育的効果の深化という側面を大幅に強化させた「事前学習会」として整えた。

事前学習会は当日フィールドワークの2週間前から週に1度の実施で2回行う。時間帯は、昼食時間中の30分間とし、昼食を取りながらの参加とした。講師は当日のガイドでもある筆者が行い、スライド、映像、テキスト（図2）を活用して視覚的に参加者の関心を喚起できるように、沖縄の歴史文化について紹介を行った。



図2 学習会用テキスト表紙

#### 1) 1回目の事前学習会の内容

##### ① 沖縄の地理的な位置についての再確認

県内の東西南北端の島（東端：南大東島、西端：与那国島、南端：波照間島、北端：硫黄島）について紹介。

沖縄は島嶼地域であることと、海洋面積でみると極めて広大な県であることを確認。

##### ② 沖縄の世界遺産について

沖縄の世界遺産「琉球王国時代のグスク及び関連遺産群」の名称および構成する史跡等の名称や地理的位置について解説。当日のフィールドワークでは、そのうち2か所（首里城跡、園比屋武御嶽石門）を訪問することを予告。

##### ③ 首里城の由来について

建造時期が不明であること、祭政一致の施設

であったことについて解説。沖縄戦での破壊を含め、4度の焼失を経験しており、1992年に復元されたことを紹介。また、観光ガイドとしての視点として、「首里城公園」が、「美ら海水族館」とともに、沖縄県内での観光において、外すことのできない2大スポットのひとつであることを説明。

#### 2) 2回目の事前学習会の内容

##### ① 冊封、朝貢について

当時の琉球の対外関係についての解説。

##### ② 琉球の大交易時代について

冊封体制のもと、琉球が中継貿易国として繁栄したこと等についての解説。当時の輸出品や、万国津梁の鐘の碑文についての説明。

##### ③ 琉球と福州の関わり

朝貢を行うにあたり、琉球からの進貢使の福州への航路、首都北京への陸路等を紹介し、現代とは大きく異なり、命がけの過酷な旅であったことを紹介。

また、那覇市が福州と姉妹都市を締結しており、フィールドワークの訪問先の一つ

である「福州園」が建造された経緯についても紹介。

④ 「久米三十六姓」について

明朝中国との交易のために渡来した久米村人（クニンダンチュ）についての説明とともに、久米村人が齎した中華文化の習俗のひとつに儒学、道教があり、係る寺廟（孔子廟・天尊廟・天妃宮）にフィールドワークの際、訪問することを予告。

⑤ フィールドワーク当日の注意事項について

2回目の事前学習会は、出発前のオリエンテーションを兼ねている。集合時間の厳守、持参物、服装、緊急連絡先について確認。

3) フィールドワークの行程

各行程における訪問先の概略とともに、行程に組み込んだ経緯及び案内方法について示す。また、ガイドとして、以下の点に留意をしていることを以下に補足する。

- ・参加者を焦らせず、ゆったりと見学ができる行程とする。
- ・熱中症予防に細心の注意を払う。例年真夏日であるため、飲料水の確保とともに冷房施設、屋外においては日陰のある地点を事前に把握しておく。

行程1) 集合

時間：8：30 \*出発時間 9：00前後

場所：本学SHALOM会館ラウンジ

参加者の出席状況、健康状態を確認し、出発前に簡単な朝のオリエンテーションを行う。

行程2) 福州園

時間：9：40ごろ到着

住所：〒900-0033 沖縄県那覇市久米2-29-19

福州園は、那覇市と中国福州の姉妹都市10周年を記念し、1992年に開園した中国式庭園である。「三山兩塔一條江（3つの山、2つの塔、1つの川）」として名高い福州を代表する風景が再現されている。ミニチュア福州ともいえる本園では異国情緒ある空間を体験でき、中国の文化、習俗、琉球国時代からの関わりについて説明が可能な施設である。



写真1 福州園入口



写真2 福州園園内

行程3) 孔子廟（至聖廟）

時間：10：40ごろ

住所：〒900-0033 沖縄県那覇市久米2-30-1

孔子廟（至聖廟）は、儒学の祖、孔子を祀る寺廟であり、久米村人の子孫の有志が

結成した一般社団法人久米崇聖会が管理する施設である。地理的には福州園の入り口から裏手に位置し、徒歩で移動できる距離である。久米三十六世についての紹介と、孔子廟が過去には国道58号線沿いの那覇商工会議所隣に位置していたが、沖縄戦により焼失したこと、以来現在の天妃宮敷地（行程4参照）に再建されていたが、2013年度に現在の場所に移されたことを解説する。



写真3 孔子廟（至聖廟）大成殿



写真4 大成殿前での集合写真

#### 行程4) 天尊廟・天妃宮

時間：11：10ごろ

住所：〒900-0031 沖縄県那覇市若狭1-25-1

孔子廟と同じく一般社団法人久米崇聖会が管理する施設で、道教にまつわる神々を祀る寺廟である。天尊廟では、唐朝期の雷神である天尊（九天応元雷声普化天尊）とともに、水神である龍王と、『三国志演義』で有名な関羽を神格化した関帝（関聖帝君）が祀られていることを、また天妃宮では、航海守護の女神天妃（天上聖母または媽祖）が、従属する神（千里眼・順風耳）と共に祀られていることを紹介する。また、それぞれの神が有する性質が、沖縄において変質していることも加えて説明を行い、「習合」の興味深さについても解説する。



写真5 天尊廟



写真6 天妃宮

#### 行程5) 昼食：漢謝園 安里店

時間：12：00ごろ

住所：〒902-0067 沖縄県那覇市安里1-7-1

漢謝園は中華料理の飲食店である。比較的安価なランチが提供されるため、昼食代は本学予算から支出している。参加者にとっては無料で中華料理を味わえる機会であ

り、本学習会のセールスポイントともなっており、訴求力を高めている。午前中に訪問した福州園、孔子廟等から引き続いて、味覚の観点から中華文化を体験できる機会になるとともに、冷房が完備された空間で、参加者がゆったりと休憩できるよう整えた。また、漢謝園は福州園等のある久米と、首里城公園がある首里の中間地点の安里にあり、行程の観点からも理想的な地理的位置にあるといえる。



写真7 漢謝園での昼食

#### 行程6) 首里城公園

時間：13：30ごろ

場所：〒903-0815 沖縄県那覇市首里金城町1-2

首里城公園は、1992年の首里城の復元とともに開園した国立公園である。園内には世界遺産「琉球王国のグスクおよび関連遺産群」を構成する2つの史跡「園比屋武御嶽石門」と、「首里城跡」がある。歴史的価値の高い史跡が見学できるとともに、首里城を含め、円覚寺等、周辺の文化財が沖縄戦で焼失している経緯が紹介できるため、平和教育のための施設という側面もあり、あらゆる意味で沖縄の歴史文化を象徴する公園であるといえる。

公園内は無料・有料区域で構成されており、本学習会では以下の順路で見学している。

・無料区域見学（60分程度）

守礼之門→園比屋武御嶽石門（世界遺産）→歓会門→瑞泉門→漏刻門→万国津梁の鐘（レプリカ）→広福門→首里森御嶽



写真8 守礼の門



写真9 園比屋武御嶽石門

・有料区域見学（60分程度）

奉神門→南殿→正殿（世界遺産「首里城跡」見学可能）→北殿



写真10 奉神門



写真11 首里城正殿 玉座の間

### 行程7) 反省会

時間：16：30ごろ

場所：本学SHALOM会館ラウンジ

本学に戻り、解散する前に反省会を実施する。この反省会では、アンケートの記入・提出とともに、参加者全員、一人ひとり本学習会についての感想を発表してもらい、全体でフィールドワークから学んだこと等を共有する時間を持った。



写真12 反省会・感想の発表



写真13 反省会・アンケート記入

## 4. 2017年度アンケート集計（参加学生25名より集計）

アンケート結果の引用は原則として原文のまま掲載している。

**Q 1 本日のプログラムで印象に残ったところをチェックしてください。**

（複数回答可 施設名後ろは チェックのあった数／参加学生数）

■福州園 24/25 ■孔子廟 7/25 ■天尊廟・天妃宮 7/25

■首里城公園 21/25 ■その他 3/25（その他は全て漢謝園のランチについて）

<Q 1 回答の理由>

- ・（福州園）中国の建築様式を取り入れて、建物がきれいだった。（中華ランチ）麻婆豆腐が思ったより辛かったがおいしかった。
- ・（福州園）四季が表現されていて、池や建物がとてもきれいだった。首里城は、知らないことを多く知ることができて、初めて入って感動した。
- ・（福州園）韓国ドラマにあるような建物が沖縄にあったのを初めて知った。
- ・（福州園）忠実に中国が再現されていて感動した。沖縄にも竹が生えることに驚いた。

- ・福州園の風景が美しく、まるで中国にいる気持ちになれた。
- ・いつも福州園の前を通っていて入ってみたいと思っていた。
- ・福州園は中国に来た感じで楽しかった。初めて行けて良かった。
- ・福州園は初めてで、建物の作り、広さに感動した。
- ・福州園にて、中国の方の幸せになりたいという欲はすごいな、食欲だなとびっくりした。
- ・福州園は、高校の時、目の前にあったのに行くことがなくて、今回行って見て、こんなに素敵な場所が近くにあったのに、行っていなかったことを後悔した。首里城公園も実際に見て回れて良かった。
- ・福州園は初めてで、ガイドがあってより福州園を知れて良かった。
- ・(福州園、孔子廟、天尊廟・天妃宮) 自分の知らない世界が広がっていた。
- ・(福州園、孔子廟、天尊廟・天妃宮) 初めて行った。中国との繋がりを知ることができた。
- ・天妃宮・天尊廟は存在を知っていたが、入ってみたことはなかった。
- ・中国のお寺が沖縄にもあることが一番の衝撃だった。
- ・(福州園・首里城) 歴史を感じることができる場所だった。
- ・(首里城) 守礼之門が良かった。
- ・今日行ったところは首里城しか知らなかったもので、他の所もあり、もっといろんな所をめぐりたいと思った。
- ・首里城以外初めて行ったので、知らないことが多く、知識を得ることができた。
- ・福州園、首里城の建物の作りがきれいで、歴史を感じた。
- ・久しぶりに首里城に行き、琉球王朝の深い歴史と中国との関係を知ることができた。次は夜に行ってみたい。
- ・普段行かないところで、いろんな話を聞けたから。
- ・いろいろ勉強ができた。
- ・見どころをガイドしていただいたので、新しい発見ができて良かった。
- ・沖縄と日本、中国の混合の建物を見ることができた。

**Q2 本日のツアーで良いところ、改善点などあれば書いてください。**

**<良い点>**

- ・ガイドの説明がすごかった。本当に知らないことがたくさんあった。感動した。
- ・説明の良いガイドでツアーができたところが楽しかった。
- ・分かりやすいガイドで良かった。人数も良い。
- ・通訳案内士の仕事をすることができた。堅苦しくないガイドで、気軽に聞くことができた。
- ・ガイドがとてもわかりやすく良かった。日陰に案内してくれたところも良かった。
- ・ガイドのツアーが楽しかったし、学べた。他の教職員ともおしゃべりしながら回れた。
- ・沖縄(琉球)のことが良く分かった。ガイドが素晴らしい。
- ・ガイドが面白かった。お昼ご飯がおいしかった。
- ・ガイドが良かった。
- ・ガイドが素晴らしい!
- ・ガイドの解説が細やかに入っていて良かった
- ・沖縄の建物についての知識を増やすことができた。定期的なトイレ休憩があってよかつ



た。全て無料で体験できて良かった。

- ・良いペースで進むことができた。説明が分かりやすかった。
- ・守礼之門の説明を聞いたところ。
- ・沖縄、特に那覇の歴史がよく分かった。飲み物やお菓子も用意してくれて感謝です。これからも続けてほしい。
- ・普段沖縄にいるにも関わらず、行くことができていないところにプログラムとして気軽に参加できるところ。
- ・皆と楽しく話をしながら歴史の勉強ができた。
- ・熱中症対策をされていて良かった。大満足。
- ・雰囲気良かった。スケジュール通りゆったり回ることができた。
- ・ルーズに回ることができた。
- ・バタバタせず、ゆっくり行動しながら回れるところはとても気楽で楽しめた。
- ・急がずゆったりと見学できた。
- ・時間に縛られない観光と学習ができた。
- ・全て良かった。
- ・いろいろなところを回れた。

#### <改善点>

- ・ガイド中、聞いている学生が広がりすぎていて少し邪魔になっていたように感じた。もっときゅっと集まるよう指示した方が良かったと思った。
- ・グループを作れば誰がいないか、すぐに確認できるかもと思った。
- ・休憩時間がほしい。
- ・今回行けなかったひと参加できると良い。
- ・バスが少し小さい。
- ・暑いので、時期をずらす。
- ・暑かった。
- ・もっと自分で調べ学習をすれば良かった。

#### Q3 今日の感想を教えてください。

- ・楽しかった。
- ・初めて琉球王国のツアーに参加してとても良い勉強になった。
- ・沖縄と中国の関わりが深く、沖縄の文化に中国の文化が表れていることが分かった。無料なのに充実したプログラムで良い体験ができた。
- ・自分が住んでいる沖縄のことを全然知らないなとも思った。このまま世界に出ようとしていたので、この学習会に参加できて良かった。
- ・沖縄に住んでいても、行ったところが無いところがあって、歴史も学べて大満足だった。
- ・沖縄に住んでいても、首里城など、全然行かないので、とても良い機会になりました。特に福州園は初めてだったので、建物も中国感があって楽しかった。ガイドも素晴らしくて勉強になった。
- ・知っているつもりだったところが実は知らないことが多いなど、忘れていたものを教えてもらった気がする。また、キリ学の仲間と回れて本当に良かった。

- ・プログラム、最高でした！沢山のことを知らなかった琉球の歴史を深く知ることができて、今後自分から伝えることができそう。
- ・とてもエンジョイできた。これから沖縄の世界遺産や、歴史的建物を巡りたいと思った。今まではただ見たことのある建物だけど、深い歴史があるのだと驚いた。
- ・福州園は初めてだったので、学校の行事で訪れる機会があって良かった。天気にも恵まれ、同じ学年や違う学年でも話したことが無い人がたくさんいて、いろんな人と深くかわる機会となりました。
- ・沖縄の歴史文化がのこっているところに行けて、琉球を感じる事ができた。次は自分で調べて知識を持ち、他の世界遺産を回ります。
- ・初めて参加したが、とても充実した内容で良かった。沖縄の歴史を学べたのもっと沖縄の歴史に興味を持った。
- ・普段、県外からの修学旅行生向けに沖縄戦や米軍基地のガイドをしているのですが、琉球の歴史を学ぶ機会があまりなかったため、今回学ぶことができて私の中の知的好奇心をくすぐられた。琉球史を勉強したいと思った。
- ・とても面白かった。本当に参加できてよかった。今まで琉球王国のことを何も知らなかったけど、今回のツアーで本当に勉強になった。いろいろ知ることができて良かった。
- ・今までいったところにある場所や、ない場所も初めて知ることが多く勉強になった。授業だけではわからない、その土地の雰囲気を感じるころができて良かった。
- ・万国津梁の鐘にもあるように、沖縄は本当に良いところなのだと思います。こんなに中国との交流が深かったのに、今は反日とかであまり仲良くないのが残念だと思いました。中国人とももっと関わっていきたい。
- ・とても楽しかった！参加してよかった。ありがとうございました。
- ・歴史を学びながら、新しい友人もできた。ガイドの説明も分かりやすかった。
- ・暑いのがきつかったけど、お菓子が食べられたし、中華料理もおいしくて快適なツアーだった。
- ・どこも初めて行く場所で、建物の作り屋中の広さに驚いた。神様の由来や、沖縄の歴史も初めて聞くことがあり、楽しい1日だった。これを機に勝連城跡なども見たいと思います。
- ・沖縄に住んでいても、あまり行く機会がないところに行けたので良い経験になった。
- ・暑い中大変だったけど沖縄の歴史文化を学べて良かった。
- ・福州園や天妃宮は、沖縄に居ても訪問する機会がなかったため、訪問できてよかった。中国との関わりを深く感じた。
- ・琉球時代に戻ったように思えて、学ぶことが大きかった。次の経験に活かしたい。

**Q 4 沖縄の歴史文化学習会で行きたい場所があれば教えてください。**

(単数回答と複数回答等で分類した。重複した回答は件数を示しまとめた。)

**【単数回答】**

- ・斎場御嶽 (3件)
- ・識名園 (2件)
- ・世界遺産 (2件)
- ・勝連城跡
- ・浦添の城

【複数回答等】

- ・ 識名園、座喜味城跡
- ・ 識名園、沖縄戦跡、中城城跡、勝連城跡、座喜味城跡、浦添城跡
- ・ 勝連城跡などの県内城跡
- ・ 他の城跡など、遠い地域に行きたい。
- ・ 県立博物館、夜のライトアップされた首里城。自分から行ってみたいと思う。  
勝連城跡や斎場御嶽にも行きたい。
- ・ 博物館や美術館、平和に関係する場所、後期も何かやってほしい。
- ・ 勝連、平和学習など。
- ・ 沖縄戦に関係する場所（孔子廟や首里城も沖縄戦の影響がある）対馬丸祈念館  
ハクソーリッジ 米軍基地周辺。
- ・ 戦跡巡り、ひめゆりの塔、対馬丸、平和の礎、ガマ等。
- ・ 北部ツアーもあれば行きたい。
- ・ 北部や中部にも行きたい。
- ・ 他国との交流がわかる場所。
- ・ 地元の人が行かないところ。

5. 学習会の実施報告

後日、本学習会について、2017年7月4日付にて、本学ウェブサイトにて掲載し、学内外に実施報告した。



図3 本学ウェブサイト記事

■記事見出し「ix-国際交流友の会 沖縄の歴史・文化学習会 2017」実施しました  
。 [https://www.ocjc.ac.jp/2017/07/04/20170704\\_ixrekishibunka/](https://www.ocjc.ac.jp/2017/07/04/20170704_ixrekishibunka/)

<参考文献>

内間貴士（2007）「現代久米村人を巡る多角的な視線—社団法人久米崇聖会の活動を中心に—」  
『沖縄県立芸術大学紀要15号』沖縄県立芸術大学

